

「ナカセンナリ」栽培指針

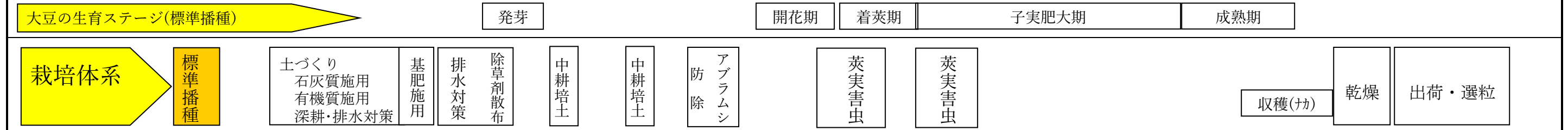
JA 佐久浅間・佐久農業農村支援センター

◎品 種：ナカセンナリ（県認定品種H7～）：晩生、センチュウ抵抗性強い、立枯性病害少ない、モザイク病に弱く褐斑粒が発生しやすいので防除を徹底

◎大豆栽培「6つのポイント」

- ①購入種子を使い更新する(病害対策)
- ②適期播種、栽植本数の確保（8,000～10,000株/10a）に努める
- ③作溝＋灌水⇒排水＋根粒菌活性化＋干ばつ＋しわ粒対策
- ④紫斑病・カメシ・マメシクイガ・アブラムシ等病害虫の防除を徹底
- ⑤茎と莢、子実の水分確認で適期収穫を見極める
- ⑥丁寧な乾燥、脱穀でしわ粒、割れ、皮切れ防止

4	月	5	月	6	月	7	月	8	月	9	月	10	月	11	月	12
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	----	---	----



■ほ場準備■

- 耕起・砕土
 - ・作土深15cmのロータリー耕
 - ・均平と細かい砕土となる丁寧耕起
- 排水対策の実施
 - ・特に上畦側に排水溝を設け、必ずほ場外へつなぐ。

☆排水溝が夏の干ばつ時に畝間灌水の水みちとなる。

■施肥量■（10aあたり）

土壌診断による設計に基づいた施肥
堆肥 1,000kg(晩播では不要、未熟厳禁！タネエの源)
炭苦土 200kg(土壌pH6.0に調整する)

基肥	BB642 (6-24-12)	ミネアプリ7号 (8-8-5)
標準播種	40kg (N2.4kg)	30kg (N2.4kg)

※火山灰土壌等、地力に応じて加減する。

■播種時期■

- 標準播種 6月上旬～中旬

■適正播種■

- 3～4cmの深さに1株1～2粒播種。下記を参考に作業効率を考え、畝間・株間を調整。
- 10aあたり 播種量 4kg
- 畝間70cmの株間→15cm
- 畝間80cmの株間→12.5cm

■除草剤散布■（中耕培土2回できる場合は削減可能）

- 土壌処理剤

薬剤名	10a使用量	対象雑草	使用回数
クリアター細粒剤F	4～5kg	一年生雑草	1回

(適度に湿った状態で播種直後に散布)

 - ☆播種直後（雑草発生前）に散布すること。
- 茎葉処理剤

薬剤名	10a使用量	対象雑草	使用回数
ナブ乳剤	150～200ml/水100～150ℓ/10a	イネ科3～5葉	1回
大豆バクラン液剤	100～150ml/水100ℓ/10a	一年生雑草	1回

 - ☆収穫30日前まで。スズメカビには効かない。
 - ☆大豆2葉期～開花前。雑草生育初期～6葉期
 - ☆収穫45日前まで。広葉雑草のみ
 - ☆葉害の可能性があるため高温時には散布しない。

■中耕培土■（雑草抑制・根粒菌活性化・排水対策の決め手）

1回目は本葉1～2枚目が展開する時期（播種後20～30日頃）子葉が隠れない程度行う

2回目は本葉5～7枚の展開期（播種後30～45日頃）初生葉が隠れない程度に行う

■干ばつ対策のかん水■

- ・葉が反転する、下葉が枯れることが予想される場合に実施
- ・開花期から莢伸長期までの20日間は特に重要
- 少量多回数の灌水、短時間で一気に排水。

■病害虫防除■

- アブラムシが多い（7～8月）⇒ スミチオン乳剤
- 開花期(お盆前)～若莢期 ⇒スミトップM粉剤
- 子実肥大期(8月下旬～9月)特にカメシが多い場合 ⇒ スミチオン乳剤 か スミトップM粉剤

大豆防除薬剤一覧

対象病害虫	薬剤名	使用時期	使用量 (10aあたり)	使用回数
アブラムシ類 マメシクイガ カメシ類	スミチオン乳剤	収穫21日前まで	1000倍 100～300 リットル	あわせて 4回以内
紫斑病 マメシクイガ、カメシ類、 ダイズサヤタバエ	スミトップM粉剤	開花期～若莢期(但し収穫21日前まで)	3～4kg	

※隣接する作物にかからないように散布方法・時期、風向等に注意する。
※その他の農薬については、JAまたは農業改良普及センターにご相談ください。

■適期収穫■

- 収穫適期 成熟期～成熟7日後
- 成熟期判定の目安
 - ・葉や葉柄が落ち、莢が褐色または濃褐色等特有の色に変わる
 - ・莢を軽く振ると莢内で子実がカラカラと音がする状態
- 収穫 ⇒ 乾燥(島立ち等) ⇒ 脱穀(ビーンスレッシャーまたは叩く)

☆出荷規格については各JAが定める基準に従ってください。

この資料の農業登録情報は令和3年2月3日現在の農業登録に基づくものです。農薬の使用にあたっては購入時及び使用時に改めて確認をお願いします。